

製品名: mGluR1 (2N7) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe13856**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン (pH 7.4)、0.15M NaCl、40% グリセロール、0.01% 新タイプ防腐剤 N、および 0.05% 保護タンパク質で供給されます。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000
分子量	132kDa

抗原情報

遺伝子名	GRM1
別名	GRM1A; mGlu1; GPRC1A; MGLUR1; SCAR13; MGLUR1A;
遺伝子 ID	2911.0
SwissProt ID	Q13255
免疫原	ヒト mGluR1a の合成ペプチド

背景

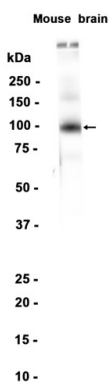
L-グルタミン酸は中枢神経系の主要な興奮性神経伝達物質であり、イオンチャンネル型および代謝型グルタミン酸受容体の両方を活性

化します。グルタミン酸作動性神経伝達は正常な脳機能のほとんどの側面に関与しており、多くの神経病理学的状態において障害を受ける可能性があります。代謝型グルタミン酸受容体は G タンパク質共役受容体ファミリーであり、配列相同性、推定シグナル伝達機構、および薬理学的特性に基づいて3つのグループに分類されています。グルタミン酸に対する G タンパク質共役受容体。リガンド結合により構造変化が引き起こされ、グアニンヌクレオチド結合タンパク質 (G タンパク質) を介したシグナル伝達が誘導され、下流のエフェクターの活性が調節されます。シグナル伝達はホスファチジルイノシトール-カルシウムセカンドメッセンジャーシステムを活性化します。中枢神経系におけるグルタミン酸の中樞作用、例えば海馬における長期増強や小脳における長期抑制に関与する可能性がある (PubMed:24603153、PubMed:28886343、PubMed:7476890)。網膜における光反応にも作用する可能性がある (類似性による)。

研究分野

カルシウム;神経活性リガンド-受容体相互作用;ギャップ結合;長期増強;長期抑制;

画像データ



mGluR1 (2N7) ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用してマウス脳組織抽出物のウエスタンブロット分析を行いました。